

2026  
3月

# Town くぐの

Vol.251

発行／久々野まちづくり協議会  
企画・編集／教養広報委員会

事務局 久々野多目的センター TEL0577-52-3098 FAX0577-70-8178 高山市久々野町無数河580-1 E-mail machi@kuguno.com

## かじかむ手と手で あたたかい友情 なんせい・くぐの冬の交流会

2月7日(土)・8日(日)、なんせい・くぐの冬の交流会が行われました。海の子と、山の子。対照的な環境で育つ子どもたちが、2日間にわたり、そり遊びやスキー体験を通

して友情を深めました。長く受け継がれてきた冬の交流会の「ローガン」「かじかむ手と手で あたたかい友情」とおり、寒空の下で握り合った手からぬくもりが広がり、会場は笑顔と歓声に包まれる、まさに寒さを吹き飛ばす「ホット」な交流となりました。



かじかむ手と手、笑顔はほかほか

最初はどこかよそよそしく、丁寧な言葉づかい。けれども、「敬語はやめよう!」と誰かからともなく声が上がると、空気が一変。子ども同士の間隔はあつ

た。当日は支所や街角に多くの町の皆さんが出迎えに集まり、あたたかな拍手と声かけで子どもたちを迎えてくださいました。そのぬくもりに背中を押されながら、いざ対面すると少し緊張気味。久々野の子も子どもたちがつくった花道を、南勢の子も子どもたちがちよつびり照れながら歩く姿に、こちらまで胸がきゅんとなりました。

「最初はどこかよそよそしく、丁寧な言葉づかい。けれども、「敬語はやめよう!」と誰かからともなく声が上がると、空気が一変。子ども同士の間隔はあつた。当日は支所や街角に多くの町の皆さんが出迎えに集まり、あたたかな拍手と声かけで子どもたちを迎えてくださいました。そのぬくもりに背中を押されながら、いざ対面すると少し緊張気味。久々野の子も子どもたちがつくった花道を、南勢の子も子どもたちがちよつびり照れながら歩く姿に、こちらまで胸がきゅんとなりました。」

「最初はどこかよそよそしく、丁寧な言葉づかい。けれども、「敬語はやめよう!」と誰かからともなく声が上がると、空気が一変。子ども同士の間隔はあつた。当日は支所や街角に多くの町の皆さんが出迎えに集まり、あたたかな拍手と声かけで子どもたちを迎えてくださいました。そのぬくもりに背中を押されながら、いざ対面すると少し緊張気味。久々野の子も子どもたちがつくった花道を、南勢の子も子どもたちがちよつびり照れながら歩く姿に、こちらまで胸がきゅんとなりました。」

という間に縮まりました。一台のそりに久々野の子と南勢の子が肩を寄せ合って乗り込み、勢いよく斜面を滑り降りると、はじけるような笑い声。何度転んでも、雪まみれになっても、それがまた楽しい。山の子が自然に手を差し伸べ、海の子がその手を握る……そんな光景があたりこちで見られました。

2日目はスキー体験。初めてスキー靴を履く子どもも多く、最初はおぼつかない足取りでしたが、「左足を踏ん張って!」「そうそう、その調子!」と久々野の子も子どもたちが優しく声をかけます。励まし合いながら何度も挑戦するうちに、みるみる上達。ついにはリフトに乗り、自分の力で滑り降りてくる姿も見られました。その達成感に満ちた表情は、きつと一生の宝物になることでしょう。

この交流会を陰で支え、形にしてくださいしたのは保護者の皆さんです。温かい飲み物や焼き立てのフランクフルトを用意し、冷えた体を温めてくださいました。スピードが出すぎて止まらなくなったそりを、全身で受け止めるお父さんの勇姿も。秋口から何度も打ち合わせを重ね、「子どもたちに最高の思い出を」

と心を一つに準備してくださったその思いが、確かに実を結んだ2日間でした。子どもたちは、大人たちのその姿をしっかりと見ています。一生懸命に動く背中から、思いはきつと伝わっています。彼ら彼女らがやがて父や母になったとき、今度は自分の子どもたちのために同じように力を尽くす……そんな未来を想像すると、なんともあたたかな気持ちになります。

47年続く、二つの町を結ぶ交流。海と山をつなぐのは道路でもバスでもなく、人々との絆なのだと思えて感じました。ちぎれた紙テープを握りしめ、名残惜しそうにバスを見送る子どもたちの後ろ姿。その姿は、別れではなく、次の再会への約束のようにも見えました。

片付けをしながら、あるお父さんがぼつりと仰います。「交流した久々野と南勢の子が結婚したら素敵やなあ。」

「交流した久々野と南勢の子が結婚したら素敵やなあ。」

「交流した久々野と南勢の子が結婚したら素敵やなあ。」

「交流した久々野と南勢の子が結婚したら素敵やなあ。」

「交流した久々野と南勢の子が結婚したら素敵やなあ。」

かじかむ手と手で あたたかい友情 (つづき)

雪の上で結ばれた友情の輪。写真と、南勢から届いた心あたたまるお手紙を紹介します。

南勢小学校5年 A 班 名前(中村夏穂)

スキーでこけても、転ぐりでもいよ、お父さんだよという声をかけてくれたらして、久々野みんながやさしくて、とても楽しくて、スキーをまわりたいなと思いました。久々野のみんなはあまらなくて、1日目の朝、さんちうしているときに、笑わしてくれました。また久々野に行きたいなと思ったし2日じ、絶対たりないなと思いました。

久々野のレトロ  
三♡ 南伊勢町のみかん畑へ行って～おじい

南勢小学校保護者 名前(太田幸吉)

35年前の交流会で同じ班だった友人と、奇跡の再会を果たしました。前夜に妻へ当時の思い出を話していた矢先の出席で言葉にできないほど感激しました。今回は親の立場で参加はしたが、最初は緊張していた参加者同士が次第に打ち解け、子どもたちの弾ける笑顔を見ることができ、本交流会の素晴らしさを改めて再確認しました。長年、本交流会を継続し支えてくださった皆様、そして現地で盛大に迎えてくれた久々野の皆様、本当にありがとうございました。



よいしょ！よいしょ！雪上綱引き



寄り添い、声をかければすぐ上達

二十四日市

1月24日(土)、高山の冬の風物詩「二十四日市」が開催されました。「二十四日市の天気は荒れる」と昔から言われていますが、今年も前日から雪が降り続き、会場となった本町通は一面の雪景色。まさに、二十四日市らしい風情ある一日となりました。

今年土曜日の開催とあって人も多く、通りはすれ違うものもやつとのにぎわい。それでも、訪れた人たちは厳しい寒さをもとませず、会場全体は熱気に包まれています。そんな中、久々野が誇る伝統工芸品、小屋名しょうけや有道しゃくの店先にも多くの人が足を止め

ました。手に取ってじっくりと眺め、作り手の話に耳を傾けながら、お気に入り一品を求めめる姿があちこちで見られました。

店先では、しょうけやしやくしの製作実演も行われ、職人の手から次々と形作られていく様子に、自然と人だかりができました。

木の香り、道具の音そして丁寧な手仕事……その場にいるだけで、ものづくりの温かさが伝わってきます。外国からの観光客の皆さんからも、思わず「Amazing!」と声が上がる場面もあり、国境を越えて伝統工芸の魅力が伝わっていることを実感しました。

また、昨年の二十四日市で実演を見たことをきっかけに、「自分も作れるようになりたい」と思い立ち、今年度は遠く愛知県から毎月、小屋名しょうけ講習会に通っている方もいます。

こうした出会いや感動を通して、小屋名しょうけや有道しゃくの魅力が少しずつ、しかし確実に広がっていくことを、私たちも大変うれしく感じています。



雪の市に息づく 伝統の手しごと



匠の技に思わず足が止まります

節分祭

2月1日(日)、町内の神社で節分祭が行われました。

宮司さんが家族の名前(世帯主のみの場合もあります)を読み上げ、家内安全と家族の無病息災を祈願。厳かな祝詞が響く中、参拝者は静かに頭を下げました。

ご祈祷の後は、お楽しみみの豆まきです。宮司さんが代表してまく神社もあれば、厄年の方が務める地区もあり、その形はさまざま。「福は内！」の元気な掛け声とともに、境内は笑顔に包まれました。

中には抽選会を行ったり、キッチンカーが並んだり、地域や神社ごとの工夫も見られ、にぎやかなひとときとなりました。久しぶりに顔を合わせる人同士が言葉を交わす姿もあちこちに見られ、祭りは人と人をつなぐ大切な場であることを改めて感じました。

一年の無事を願う気持ちを新たに、心あたたまる節分祭となりました。



「福は一内！」写真提供 倉畑稔さん(小屋名)

## ミャンマー料理教室

1月31日(土)、久々野まちづくり協議会は、地域に暮らす外国の方々との交流を深めるため、久々野公民館でミャンマー料理教室を開催しました。講師は、八光苑で働くミャンマー出身のレックスさん、フーさん、ムーさんと岩腰栄養士さんです。

この教室は、遠くミャンマーから来て一生懸命働く3人が、地域の人々と触れ合い元気に過ごせる場になればとの思いから実現しました。当日は17名が参加し、調理実習室は活気にあふれました。

参加者は包丁を手に、「この香りは初めて」「意外と日本の料理に似ているね」など声を交わしながら調理を進めます。しかし、すべてが初めて作る料理。あちこちから「全部入れているの?」「みじん切りで大丈夫?」と少しあせる声も聞こえました。そんな参加者とは対照的に、講師たちは穏やかに優しく声をかけ、緊張をほぐしてくれました。

出来上がった料理はグループごとに講師も交えて試食。「おいしいね」「ピリッとしていい味」と感想が飛び交います。やがて講師の作った「正解の料理が回ってきて、ちよつとした「答え合わせ」が始まりました。食べ比べると味はどれも微妙に違います。ミャンマーの家庭料理は、家庭ごとに独特の味があるようで、どれも正解といえるのでしょうか。

「喜んでもらえてうれしい」と話す講師の表情が印象的でした。食を通じて笑顔と会話があふれ、温かな交流の時間となりました。今回は「ミャンマーのスウィーツを作ろう」と参加者も講師も楽しんでしています。



分量はこれくらいいいですか？

## 青少年育成者研修会

2月16日(月)、久々野町子ども会育成会は、青少年育成者研修会を開催しました。高山市子ども会育成連絡会から4名の講師を招き、各町内の子ども会育成委員が参加。「子どもが主役の子ども会」を支援する大人の役割について学びました。

意見交流では、各団体の実践や工夫が次々と共有されました。「いろいろな経験が子どもたちの生活力を育むのに、親が手を出しすぎではないか。親のリーダー研修

も必要では。」「子ども会の行事は、子どもが計画を立て、大人がサポートする形。大人も楽しんで面白い。」「中学生が主体で動き、小さい子の面倒も見えてくれるし、片付けも一生懸命やる。」など、それぞれの子ども会ならではの経験が語られました。

一方で、「子どもの数が少なくなり、行事のやり方を変えていかな」と、「活動場所を確保するのが大変」といった悩みも率直に出されました。



活発な意見交流が行われました

## 高校生作成 高齢者のための防災ガイド

高山西高等学校1年生の探究学習「防災チーム」が、高齢者向けの防災ガイドを作成しました。防災士や高齢者世帯、高山市協働推進課・高山市危機管理課への取材を重ね、「安心して知る防災」一実際に行動する防災」の2部構成で分かりやすくまとめられています。本ガイドは長寿会役員会で紹介されました。地域での活用の仕方はさまざまですが、高校生の視点で考えられた内容を、それぞれの立場で防災を見つめ直すきっかけにしたいだければ幸いです。

**高齢者のための防災準備ガイド**

～自分の命は自分で守る～

自宅避難に備えろ！準備品を7つのもの

- 1. 食料・水(7日分)
- 2. 高齢者用トイレ
- 3. 衣類
- 4. 現金
- 5. 貴重品
- 6. 薬
- 7. その他

**高齢者のための防災ガイド**

～自分の命は自分で守る～

災害時の3箇条

1. 500mlの水を1人1人
2. 避難場所
3. 避難経路

緊急連絡先

- 050-5636-7011
- 119

高齢者世帯の注意

1. 早期発見
2. 火元確認
3. 避難準備

### お知らせ

見てびっくり！  
ひなさま約2,200  
体が一堂に

毎年恒例、NPO  
ふるさとによる「ひ  
なさま展」が今年も  
久々野公民館で開催。

ロビー一面にずらりと並  
ぶ色とりどりのひな人形は  
圧巻の光景！写真必須の  
SNS映えスポットです。  
3月15日には伝統行事  
「がんどうち」も実施。家族  
や友人と春のにぎわいを楽  
しみましょう！  
◇ひなさま展  
日時 3月1日(日)～4  
3日(金) 9時～19時  
(休館日)月曜日  
◇がんどうち  
日時 3月15日(日) 9時  
～15時  
場所 久々野公民館ロビー  
参加無料



2200体のひなさまが  
皆さまの来場を待っています

### 今後の行事・イベント

#### ★溪流釣り解禁

3月1日(日)

#### ★まち協 教養講座 「AI、はじめの一步」

日時 3月4日(水) 19:00～  
会場 虹流館くぐの  
多目的室1・2

#### ★ひなさま展

期日 3月1日(日)～4月3日(金)  
会場 久々野公民館  
※「がんどうち」は3月15日(日)  
に開催予定

#### ★久々野町連合町内会

日時 3月5日(木)19:30  
会場 虹流館くぐの1・2

#### ★久々野(保)小中学校運営協議会

日時 3月10日(火)13:30～

#### ★南高山・観光まちづくりフォーラム

～みんなで描く、南高山の未来図～  
日時 3月14日(土) 13:00～  
会場 虹流館くぐの

#### ★中学校卒業式

3月6日(金)

#### ★小学校卒業式

3月24日(火)

#### ★保育園卒園式

3月25日(水)

#### ★小・中学校修了式

3月25日(水)

※イベントが変更になる場合があります。

#### まち協教養講座 「AI、はじめの一步」

久々野まちづくり協議会  
教養広報委員会主催による  
「教養講座を開催します。  
講師には、情報モラル教育  
研究所所長 上水流信秀  
氏をお迎えし、「AI、はじめ  
の一步」と題した講演を行っ  
ていただきます。  
本講座は、日常生活やお仕  
事の中でAIを賢く活用する  
力をも身につけ、ご自身のスキ  
ルアップにつなげていただく  
ことを主眼としています。今  
後の暮らしや活動の中で、実

感をもって役立てていただ  
ける内容となっております。  
◇日時 令和8年3月4日(水)  
午後7時～  
◇会場 虹流館くぐの多  
目的室1・2  
◇講師 情報モラル教育研  
究所所長 上水流信秀氏  
◇内容  
STEP1…AI体験  
STEP2…仕組みの理解  
STEP3…安全な利用法  
ACTION…実践TRY



※このチラシは全て「AIが作成」したものです。  
みなさんもこんなものができるようになります！

#### ◆職員募集◆

まちづくり協議会事務局職員  
(パートタイム)募集

業務 町内会や各種地域団  
体と連携した地域づくり  
仕事 協議会の経理や構成  
団体の事務支援  
時間 8時30分～17時15分  
の間で5時間～6時間  
パートタイム(フレックス可)  
勤務時間は応相談  
時給 1,100円  
資格 普通自動車免許、パソ  
コン操作できる方  
休日 土日、祝日、年末年始  
待遇 各種保険は労働条件  
により加入 労基にもと  
づく有給休暇あり  
勤務場所 久々野町無数58001  
電話 0577-521-3098  
締切 3月13日(金)までに電  
話または直接事務所に  
ご連絡願います

### くぐの散歩道

周りのぬくもりが、力になる  
— ミャンマー料理教室で広がる、  
地域のやさしい交流 —

「お塩、もうちょっと入れて  
もいいですよ。」  
やさしい笑顔とともにかけ  
られた一言に、あたたかな気持  
ちがにじみます。ミャンマー料  
理教室では、ミャンマー出身の  
講師が丁寧に母国の味を教え  
てくれました。

この教室は八光苑からの提  
案で開催。当日、あいさつに  
立った八光苑の佐藤郁洋苑長  
は、「遠い国から来日し、毎日  
誠実に働いている3人が地域  
の皆さんと交流すること、  
その頑張りを知ってもらい、地  
域とともに生活を楽しくして  
もらえたら」と語りました。

当日は、隣の朝日町にある  
建設会社で働く、2人のミャン  
マー出身の若者も参加しまし  
た。社長さんや職場の仲間  
「懐かしい故郷の料理を味わっ  
てほしい」という親心からの参  
加です。久しぶりに口にす  
るミャンマーの味に、2人は終始  
明るい笑顔を見せていました。  
言葉も文化も異なる遠い異  
国の地で、元気に、誠実に働き続  
けることができるのは、周囲の  
理解とあふれる愛情に支えられ  
ているからこそなのでしょう。

「ふるさととは、人」と言われ  
ます。温かい人たちに囲まれて  
暮らすこのまち・高山が、彼ら  
彼女らにとって、やがて心から  
の「ふるさと」になっていくのか  
もしれません。